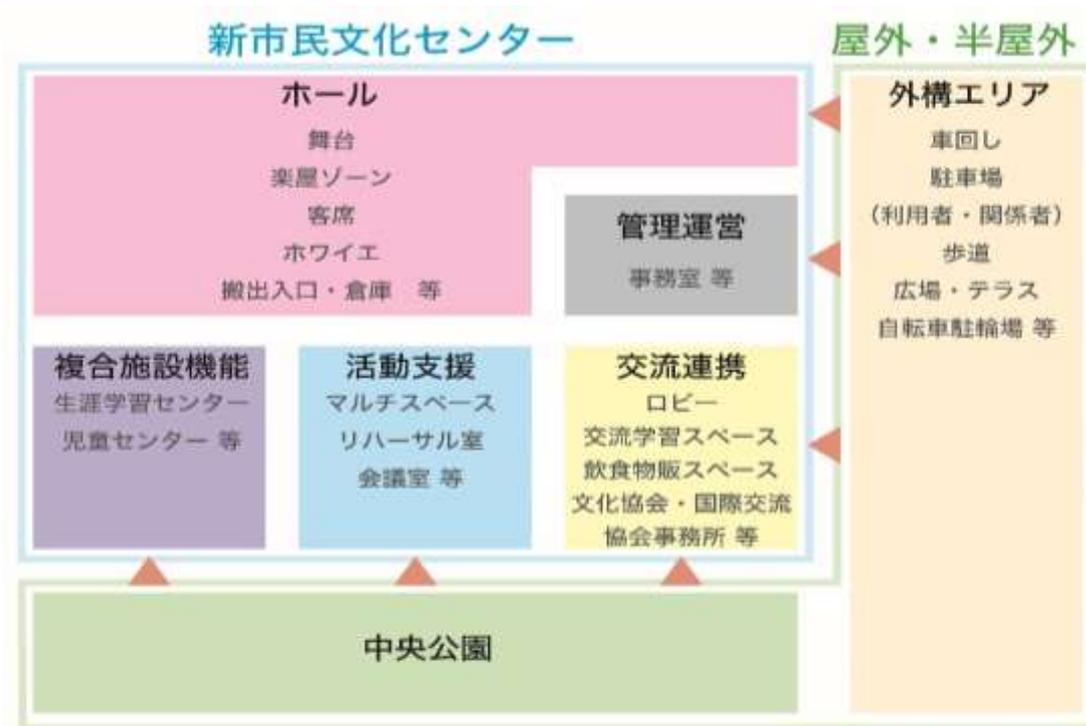


第4章 施設計画

1. 施設構成

新市民文化センターは、以下のような施設構成とする。

図表● 施設構成



2. ホールエリア

ホールは、ポップス・ロック、クラシック音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等、芸術性と専門性の高い公演から市民の練習・発表まで、幅広い用途に使用できるものとする。そのため、舞台周りの充実と客席の鑑賞しやすさと利便性に配慮して計画する。

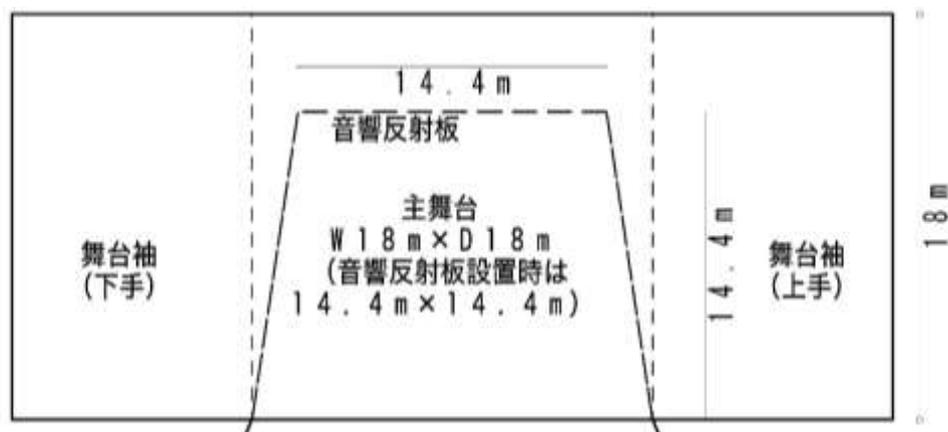
(1) 客席

- ・客席数は1,300席程度で検討し、固定席とし、1階席と2階席の2層構造とする。
- ・催しの規模に応じて、1階席のみで利用できるようにする。
- ・客席椅子の幅、前後列の間隔にゆとりをもたせ、快適に鑑賞できるようにする。また、すべての客席から舞台全体が見え、良好な音環境が得られる客席配置とする。
- ・車いす席を設けた上で、車いすに対応できる取り外し可能な席を複数箇所設ける。
- ・親子室を設け、車いすでのアクセスも可能なようにする。

(2) 舞台

- ・プロセニウム形式を基本とし、主舞台サイズは幅18m(10間)×奥行18m(10間)程度とする。舞台袖は、上手下手ともに十分なサイズを確保する。

図表● 舞台サイズ



- ・舞台開口の高さは10m程度とするが、演劇利用の際は下げられるようにする。
- ・クラシック音楽、声楽、合唱等の生音の演目に対応するための音響反射板を設置する。音響反射板を収納して行う講演や電気音響の催し（ポップス・ロックのコンサート等）においては、音がクリアに聞こえるよう配慮する。
- ・フライタワーを設け、スノコを設ける。また、舞台機構は全て電動とする。
- ・オーケストラピット、昇降式張り出し舞台の設置を検討する。

(3) ホワイエ

- ・観客が開演前や休憩時間にくつろげる空間とする。また、終演後の混雑を緩和するために、その他共用部も含め、居場所をつくる。
- ・ホールが使われていない時には市民が自由に利用できるように、ロビー等との繋がりに配慮して計画する。
- ・女性用トイレについて十分な数を設け、待機場所にも配慮する。また、多機能トイレの複数設置、授乳室の確保など、多様な利用者に配慮して計画する。
- ・主催者が利用できる控室を設ける。
- ・臨時のクロークや、荷物預かり場所としても利用できる場所を確保する。
- ・ロビーを含め、壁面を展示利用できるようにする。また、郷土資料、アーティストや市民の作品が飾れるように計画する。壁面に沿った展示台の設置も検討する。

(4) 楽屋

- ・大楽屋：2室、中楽屋：2室、小楽屋：4室を設ける。一部の楽屋は防音機能を備え、直前のリハーサルに対応できるよう配慮する。

- ・楽屋出入口・楽屋トイレ・楽屋事務室・洗濯乾燥機室・シャワールーム・アーティストラウンジなどを適切に設ける。
- ・楽屋が不足する際に、一部の会議室を楽屋利用できるように検討する。
- ・ホールの利用がない場合には、楽屋を単独で会議や練習に貸し出せるよう、動線・運用方法を検討する。

(5) 搬出入口

- ・舞台に段差なく搬出入できる位置に、搬入口及び荷捌きスペースを設ける。
- ・11tトラックが1台以上、天候に左右されずに荷降ろし及び荷積みができるようにするとともに、2重シャッターを設けるなど、ホールへの遮音に十分配慮する。また、一般車両との動線交錯をできるだけ避けた動線計画とする。
- ・ウイング式のトラックに対応できるスペースと高さを確保する。

(6) 倉庫

- ・大道具備品や音響照明機材を収納する備品庫を、舞台に近い位置で設ける。
- ・一定の温度と湿度に保つことのできる良好な環境のピアノ庫を、舞台の近くに設け、リハーサル室やマルチスペースと共用できる配置とする。

図表● ホール関連諸室 想定面積表

種別	諸室等	備考
舞台	舞台	プロセニウム形式・主舞台18m×18m 反射板設置時14.4m×14.4m
	備品庫 ピアノ庫	
	搬入ヤード	
楽屋	楽屋	大×2・中×2・小×4
	楽屋事務室	
	アーティストラウンジ	
	シャワー設備	
	給湯・洗濯室	
	楽屋トイレ	
客席	客席・車いす席	1,300席程度、2層構造
	親子室	
ホワイエ	ホワイエ	日常利用に配慮
	主催者控室	
	トイレ	十分な数を設置(特に女性用)
技術諸室	調整室	

	ピンスポット室	
	シーリング室	
想定面積		4,300㎡

3. 活動支援エリア

(1) マルチスペース

- ・平土間で大ホール主舞台（18m×18m程度）の大きさを確保し、リハーサル室を兼ね、小規模なコンサートから講演会や展示等様々な用途に対応できる仕様とする。また、椅子やテーブルを並べることで、多目的な利用に対応するとともに、一部に舞台と簡易な演出照明を設けることで、イベント時の視認性・演出性にも配慮する。
- ・ホールとの同時使用も可能なように、遮音性能を確保する。

(2) リハーサル室

- ・ホールへの遮音性能を確保し、音響反射板設置時の大ホールの舞台（14.4m×14.4m程度）の広さをもったリハーサル室を設ける。
- ・鏡張り、バレエのバーなども設け、リハーサルや練習利用、楽屋利用など、多目的に利用できるようにする。

(3) 会議室等

- ・会議室等の種類と部屋数は、市内公共施設との機能分担、現状の稼働率などを考慮し、図表●のとおりとする。
- ・様々な利用を促すため、大きさや公園など外部との関係、遮音性能、ネット環境、壁面沿いへの家具や水回りの整備等によって、バリエーションをもたせて整備する。
- ・楽屋不足時の楽屋利用、生涯学習センターの利用などに柔軟に対応できるよう、運用方法についても検討する。

図表● 会議室の種類と部屋数

名称	部屋数	備考
小会議室	2	多様な活動の受け皿になるようバリエーションをもたせて、整備・運用を工夫する
中会議室	5	
大会議室	1	
和室	1	
合計	9	

4. 交流連携エリア

(1) ロビー

- ・各階それぞれにロビーを設ける。
- ・壁面展示、公園利用者の利用、ホワイエとの一体利用等を工夫し、日常も非日常も多様な利用者の居場所になるよう計画する。

(2) 交流学習スペース

- ・ロビーの一面を交流・学習スペースとし、wifi環境や電源を整備する。
- ・利用ルール・音環境等、多様な利用に配慮する。
- ・児童センター・生涯学習センターが施設内に同居していることを活かし、利用者が特定の層に固定されず、幅広い世代に利用されるよう計画する。

(3) 飲食物販スペース

- ・施設利用者だけでなく、日常的にも多くの方が利用できるように計画する。

(4) 文化協会事務所・国際交流協会事務所

- ・施設内に事務所を設け、複合施設との連携を図る。
- ・サインの多言語化を検討する。

5. 複合施設機能

(1) 生涯学習センター

- ・占有スペースとして、事務室と書庫等を整備する。
- ・講座・セミナーの会場は、施設の会議室等を利用する。

(2) 児童センター

- ・現在の中央児童センターの諸室を整備するが、体育室を遊戯室とは別に設け、バスケット等の球技ができるように計画するとともに、ホールへの遮音に配慮する。
- ・園庭の安全性を確保するとともに、公園との連続性を検討する。

6. 管理運営エリア等

(1) 事務室

- ・ホールを主とした施設全体の管理主体と、複合機能の運営主体が異なる場合には、事務室を別に設けることも考えられるが、その場合は、開館時間の違いに対応できるよう、監視盤室や通用品の配置を工夫する。

(2) 防災倉庫

- ・備蓄倉庫の設置を検討する。

7. 中央公園

多様な世代の人々が憩い、楽しめるスペースとして計画する。

(1) 施設との一体利用

- ・イベントがない日常でも、公園の利用者が自然と施設に立ち寄ることができるように、施設との一体化を検討する。

(2) 植栽計画

- ・芝生スペースを設けるなど、立ち寄りやすい憩いの場を目指す。

(3) 親水空間

- ・地下水を活かし、憩いの場となるような親水空間を設ける。

8. 屋外スペース

(1) 駐車場

- ・駐車場を平置きで300台～400台確保し、動線交錯を最小限に抑え、安全を確保する。
- ・利用者駐車場と関係者駐車場を設ける。
- ・駐車料金の設定について、近隣施設の状況等も勘案しながら検討する。
- ・経路充電での利用や複数台同時に充電可能なEV充電器の整備を検討する。

(2) 車回し

- ・イベント時の送迎、タクシーの乗り降りなどのスペースを設ける。
- ・庇を設け、雨天時に濡れないように計画する。

(3) バススペース

- ・大型バスの転回スペース、停留スペースを設ける。

(4) 駐輪場

- ・学生の利用を促進するためにも、駐輪場を利用しやすい位置に設ける。

(5) 庇で覆われた半屋外空間

- ・公園利用者の施設利用の誘発、外から出入りできるスペースの利便性向上、日射制御などの役割を兼ねた庇を施設周囲に設け、半屋外空間とすることで、エリアの回遊性を高め連携を促進する。

9. 全体規模

エリア・機能	面積㎡	名称	備考
ホールエリア	4,300	メインホール	1,300席程度
活動支援エリア		マルチスペース	主舞台程度
		リハーサル室	音響反射板設置時の舞台程度
		会議室	一部楽屋利用も想定した配置
交流連携エリア		ロビー	日常の居場所空間とする
		交流/学習スペース	
		飲食物販スペース	
		文化協会事務所	複合施設との連携を図る
		国際交流協会事務所	
複合施設機能		児童センター	
		生涯学習センター	
管理運営エリア等		事務室	
		防災倉庫	
屋外・半屋外		車回し・駐輪場等	
		駐車場	300~400台
		中央公園	
エリア・機能合計		上記集計	屋外・半屋外面積は集計外
共用部		エリア・機能合計の約35%	
機械室			
合計			屋外・半屋外面積は集計外

10. その他

(1) 環境配慮

- ・公園と連続的な緑をつくりだす屋上緑化、ホールの大きな屋根面を太陽光発電に活用、地下水等を用いた地中熱の利用など、環境負荷低減対策の導入を検討する。
- ・建築物の高断熱化や、日射の遮蔽などのエネルギー効率の高い設備の導入によりエネルギーの消費を抑える等、省エネルギー対策に取り組む。
- ・既存施設の解体廃材（外壁煉瓦など）を一部に転用するなど、プロジェクト全体で環境配慮に取り組む。

(2) バリアフリー・利便性

- ・ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を行う。
- ・ホール客席の車いす席、多目的トイレ、身体障がい者等用駐車場など各種スペースを確保する。
- ・わかりやすいサイン計画とし、多様な利用者が心理的にも利用しやすい施設とする。

(3) 防災機能

- ・備蓄倉庫の設置を検討するほか、大ホール袖・舞台等を災害時の物資集積所として活用する。

(4) ローリング計画の上での配慮

- ・別館にある中ホールや会議室を、建設期間中にも使えるようなローリング計画（建替え計画）とすることで、利用者への建設期間中の影響をできるだけ抑える。

以上